

不思議な三角関係が描かれた本

今回は、不思議な三角関係が描かれた本を紹介します。

1冊目は、江國香織著『きらきらひかる』です。

笑子と睦月は、10日前に結婚した夫婦ですが、二人にはそれぞれお互いのみが知る秘密があります。笑子はアルコール中毒で、情緒不安定気味。それに対して睦月は同性愛者で、紺という年下の恋人がいるのです。笑子と睦月、そして睦月の恋人・紺の3人はその秘密を互いに認識し、許し、世間体を考慮したうえで結婚をしています。彼らの願いは、このまま何も変わらずに生活をしていくということ。しかしそんな傍目にも危なげな生活は、本人たちの意図しないところから徐々に綻びが生じはじめます。お互いの両親から向けられる出産への期待や、一緒に生活するうちに芽生えてしまった笑子の睦月への好意。笑子と睦月、そして紺、それぞれの思いが痛々しいほど純粹に描かれた物語です。

2冊目は、阿川佐和子著『スープ・オペラ』です。

主人公のルイはアラフォーの独身女性。ルイを女手一つで育ててくれた叔母が還暦を目前に運命の恋に落ち、彼女を残して駆け落ちをすところから物語がはじまります。突然始まった一軒家で一人暮らし。そんなルイのもとに二人の男性が現れます。アロハシャツが似合う初老の画家・トニーさんと、ちょっと気弱な年下のコウスケ。二人はひょんなことからルイの家に居候をすることになります。スープが好きということ以外、年齢も職業も性格もちぐはぐな三人。そんな三人が一つ屋根の下で暮らす様子は、まさに大鍋でコトコトと煮詰められるスープのようです。「恋人」や「家族」といった言葉では象ることのできない人間模様が、コミカルに描かれた物語です。

3冊目は、綿矢りさ著『勝手にふるえてろ』です。

「私には彼氏が二人いて、」という衝撃的な序文から語られるのは、主人公の江藤良香が今後付き合うかもしれない二人の男性について。一人目の男性、通称「イチ」は中学の時の同級生で良香の初恋の相手。二人目の男性、通称「ニ」は良香に思いをよせる会社の同僚です。もちろん二人の男性とは厳密には付き合っておらず「イチ」に関しては中学生以来会ってすらいません。中学生時代の一方的な片思いを引きずり生きてきた結果、良香は26歳にして恋愛初心者のままです。そんな良香が、自身のコンプレックスや捨てきれない理想を抱え、現実的な恋に立ち向かっていく様子は滑稽でもあり頼もしくもあります。悪戦苦闘の末、良香が選んだ相手は？恋愛に対し臆病になった時、元気がもらえそうなパワフルな物語です。

まだまだ暑い日が続きます。外に出るのが億劫な日は、家で本を読んで過ごしてみても

いかがでしょうか。